

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193800034		
法人名	株式会社 パシフィックケアサービス		
事業所名	グループホーム ゆとりの里三石(ユニット1)		
所在地	北海道日高郡新ひだか町三石晃舞344番地の6		
自己評価作成日	平成28年1月11日	評価結果市町村受理日	平成28年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193800034-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193800034-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 28 年 3 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆとりの里三石は自然に恵まれた広い敷地に平屋造りで建っています。窓からは目の前に広がる太平洋や町内の山並みが見え、夕暮れ時には美しい夕焼けや水平線に沈む夕陽を見ることが出来ます。建物の周りには畑や花壇があり、春の種まきから秋の収穫まで、利用者様と職員が協力し合い管理を行っています。また敷地内ではヤギや鶏を飼っており、羊毛は座布団やクッションに利用、新鮮な鶏卵はホームの食事に提供することもあります。近隣住民やご家族を招いてのバーベキュー大会やクリスマス会を初め、月に一回程度企画行事を行っています。建物内部は共用部分(玄関、廊下、脱衣所、トイレなど)のほとんどの場所に手すりを設置、居間や居室は大きい窓で太陽の光を存分に取り入れることができる造りになっています。災害時には迅速に消防署へ通報できるよう自動通報装置、スプリンクラーを設置しています。非常口も玄関2ヶ所を含め全5カ所あり災害時の避難経路は十分確保されており、年2回以上の避難訓練を消防署や地元消防団の方たちとも合同で行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆとり」の名称のごとく、ゆったりした造りで、利用者も職員も落ち着いた環境で暮らしています。海岸線が一望でき自然の恵みを存分に味わうことが出来る場所です。理念に掲げられていることは楽しく一緒に実践され、利用者や家族にとって安心できる居場所になっています。広い敷地は有効に活用され、動物の飼育や野菜の栽培など、地域の人々とも良好な関係作りができています。理念のほかに、職員もケア理念を作って日々のケアに活かした取り組みをしています。津波対策に重点をおき、日頃から訓練をしています。平屋づくりで非常口も分かりやすく表示されています。ユニットが直線上にあるので、利用者の交流が容易で、親しい間柄になっています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を常に意識しながらケアの実践に努めている。代表者が自ら会議等で話している	分かりやすく具体的な理念は見やすい場所に掲示され、実践されています。さらに、職員のケア理念を作成し、日々の暮らしの中に活かした取り組みをしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として催し物に参加したり、地域の方にホームの行事に参加してもらっている	地域とは相互に交流があり、地域行事への参加は勿論、ホームの行事にも地域の方々の参加が見られます。利用者みんなで制作したちぎり絵の作品は地域の芸術祭に出品し好評でした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についてもっと知ってもらうために施設長が管内の高校で講師を務めたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回は会議を行っている。包括支援センターの職員や家族、利用者も参加することがある。そこでの意見、評価を生かしている。	定期的に開催される運営推進会議は様々な内容が協議され、ボランティア活動に発展しています。地域に支えられてケアに活かしています。また、家族には議事録を送付してお知らせしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターとの協力関係を築き、専門職を講師として勉強会等を行っている。	町役場とは連携をとり具体的なアドバイスをいただきながら、ホームとしての役割を果たしています。地域包括支援センターと協力関係にあり、安心した運営を心がけています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は安全のため施錠。身体拘束しないよう見守りに務める	身体拘束防止関係の外部研修には積極的に出席し、その内容を職員全体に広め、身体拘束のないケアについて努力をしています。玄関は夜間のみ施錠しています。職員は見守りに努め、利用者が自由に外出しています。徘徊などの場合には地域の協力があり、助けられています。事業所の居間や玄関は広い窓があり、周囲の見通しが良いです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束を行わず毎日見守りに務めている。夜間は犯犯のために施錠している。日中は施錠していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会を増やした方がよい。全職員の理解が必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所時に利用者や家族の方に不安、疑問点を尋ね十分な説明を行い理解と納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所の際現状報告し、意見要望をもらうようにしている。	家族の面会が多く、職員と気軽に話せる間柄になって、要望や疑問など話し合いを日常的にしています。職員会議で家族の要望・意見を検討して前向きに取り組んでいます。又、玄関には意見箱も設置されています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時運営会議を開き職員の意見を聞いていおり、社長との面接もあり。	代表者は職員と個別に面談の時間を設け、話し合いをしています。勤務外にも交流の場があり、信頼関係を築いており、職員は業務に精励しています。自己評価も全員で取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新しい役職として介護長、ユニットリーダーを設け各自が向上心を持って務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員一人ひとりの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保している。資格取得の後押しを積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	夏祭りやクリスマス会など季節行事に参加で行き来、同業者の交流する機会も設けている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得た情報からニーズを把握し、本人に合ったサービスを検討実行し、その人らしい生活を送れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や不安を聞き安心してもらっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	随時カンファレンスを行いその時々合った支援を出来るよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族にはなれないが常に個人に寄り添う気持ちを持ち、「してあげられること」ではなく「一緒にできること」を考えサービスにつなげている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙や電話を利用し遠方の家族とも密に連絡をしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行きつけの美容室など利用し、馴染みの訪問の際はゆっくりできる場所づくりをする。	地域の中で入所前から交流があり、ホームの中でも馴染みの関係が継続されています。面会者は、他の利用者とも親しく会話をしたり、一緒にお茶を飲んだりしています。美容室の利用にも関係が途切れないように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関わりあえる環境作りもしている。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もこれまでの関係性を大切にしている。			
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し一人ひとりの思い暮らし方を把握支援できるよう努めている。	本人の性格や特徴など、生活歴をセンター方式で記載し、思いや意向を把握するように努力しています。職員は情報を共有し、共通の視点でケアに取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の暮らしができるよう馴染みのものを使ったり置いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報を共有し1日1日の変化を把握し支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングの他にカンファレンスを行い現状に適した介護計画を制作し本人家族の意見を反映している。	毎月の会議で検討し、家族や本人の意見を聞きながら、どのように暮らしたいかを考え、現状にあった介護計画を作成しています。状態の急変には即、対応しています。また、日々の記録がわかるように介護計画を表示しています。	個人記録用紙に介護計画を表示していますが、記号の記載がなく、モニタリングの際わかりづらくなっています。記入欄に記号の記載をし、充実した記録になることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃より記録を大切にし職員間で情報を共有し実践介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	温泉など利用し可能な限り支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望と本人のニーズに合った受診ができるよう往診以外にも支援している。	毎月2回の医師の往診、隔週の看護師の来訪と、毎週1回は医療関係者が利用者の健康管理をしています。また、看護師の資格保持の職員もいます。その他訪問歯科や皮膚科の往診も必要に応じて対応しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜間でも常に看護師に連絡できるよう配備し、変化があれば連絡して指示をもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療、早期に退院できるようにしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期になった時の対応を書面で交わしている。	終末期の対応や事業所で出来ることなどを書面で取り交わしています。ターミナルケアの体験があり、現在も終末期の利用者をケアしています。医師や看護師の緊急体制が整備されています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な避難訓練を行い非常時に備え備品の用意もしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防職員を講師に招き実践している。	災害訓練は火災のみならず、地域性から津波対策も考慮して実施しています。地域との協力関係が築かれており、備蓄品はもちろん、毛布の準備やスプリンクラーの設置も含めて、安心できる体制になっています。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修に参加することで理解を深めミーティング中に振り返り話し合いをしている。	利用者の過去の状況を把握してプライドを損ねないように配慮をしてケアに当たっています。人格を尊重し、帰宅願望の強い利用者には、寄り添って利用者本位に支援しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人を尊重しよう心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入浴の希望に沿えるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に希望を聞き外出支援もおこなっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常に利用者さんと準備、下ごしらえなど一緒にしている。	前もって決められた献立ではなく、食材の準備や利用者の希望に添った献立を考えて食事を提供しています。利用者は職員と共に和やかに食事をし、後片付けなど利用者が出来る範囲で協力しながら、家庭にいるように過ごしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取困難な人にはゼリーや果物など提供し臨機応変に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアし、必要に応じてしか受診もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれのタイミングで誘導している。	個別に利用者の状況を把握して排泄支援をしています。パッド、オムツと使い分けをし、男性専用便器も設置されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動などで改善できる部分を補っているなっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	午前午後どちらでも入浴できるようにしている。できる限り希望に沿ってしている。	ユニットで異なった浴槽があり、身体状況に合わせた浴室を選べるようになっていました。2人の介助者で安全に入浴できる体制にしています。希望によっては毎日入浴する人もいますが、概ね週2回を目途にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも居室に戻ったり居間で休んだりしている。昼夜逆転防止のため、声掛けなどもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	中村薬局に講習をしてもらっている。服薬忘れ防止に利用者にも読んでもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やサークル活動などして気分転換をしてもらっている。昔からしていたことを参考にして取り入れたりしている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの人数が多い時は外出などしている。	職員のみならず、家族の応援で外出支援が来ています。外食や買物、又、季節の屋外行事等、出来るだけ戸外の空気を満喫できるように支援しています。自然に恵まれた環境の中、外出ができるように地域の応援もあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は出来る範囲で本人に支払いなどしてもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やはがきなど送っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居心地のいいスペースづくりを心がけている。	室内の壁面は職員が委員会で検討し、工夫された飾り付けがされています。「職員の長所発見メモ」が掲示されており、職員間の良好な関係と気づきを重視する姿勢を見ることができます。広いスペースはゆったりとした気分になり、おおらかで明るい雰囲気、ホームを居心地の良い楽しい住まいにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時の状況に合わせて配置換えなどして対応している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのものをおいて対応している。	居室の窓から、海が見えます。室内は馴染みのベッドや家具を配置して安心の居場所になっています。入り口はわかり易い名前の表示があります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには張り紙で表示している。			